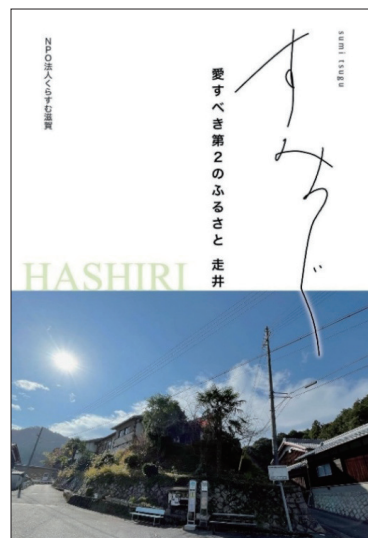


NPO 法人くらすむ滋賀 編著

『すみつぐ 愛すべき第2のふるさと走井』

サンライズ出版 2024年11月刊
定価：本体2000円＋税

谷田 誠（滋賀自治労連）



NPO 法人くらすむ滋賀（以下、「くらすむ滋賀」）は、2020年6月に大学教員、建築士、公務員などにより滋賀県栗東市で設立されました。家屋を次世代に住み継ぎ、地域のまちづくりの核として活用することで、地域文化の伝承や地域社会の発展に向けて活動しています。主に空き家となった家屋の「住み継ぎ」をサポートするため、家屋所有者と、新たな住まい手をつなぐ橋渡しを行っています。

また、事業の一環として住まい手や建物に関わる人々から、「まち」「地域」「自然」「文化」「生活」などについて聞き取る「住まいの記憶史調査」を行っており、本書では、栗東市南部に位置する中山間地域「走井（はしり）」でこの調査を行ったことを契機に地域の人々と深く関わったことが書かれています。

はじめは走井に住む林業家・宮城定右衛門さんを通じ、宮城邸と地域との関わりを調査しようと訪れた「くらすむ滋賀」のメンバーですが、宮城さん自身の生き方と地域への愛情に触れ、コミュニティの一員かのように温かく迎え入れられました。多くの中山間地域や小規模集落が抱える問題がこの走井集落にもあるにもかかわらず、とてもポジティブに「なんでもやってみよう」と軽やかに周り

の人々を牽引していく宮城さんの魅力的な人物像が書かれています。また、農林業や集落の将来についての問題について、改善のために働きかける宮城さんの行動力と、共に前に進む集落の仲間との活動についても紹介されています。

本書の終盤では観光庁が推進する「第2のふるさとづくり」への取り組みについても紹介されています。走井地域を含む栗東市の中山間地域一体を観光や体験ができる旅のフィールドとして発信しています。集落を第2のふるさとだと感じてもらうため、栗東市観光協会が取り組む事業に集落全体をフィールドとして提供しており、集落の人々も事業に協力しています。そんな現代の流れもキャッチし、将来の集落の活性化に生かそうと柔軟な取り組みをされています。

日本のどこにでもある小規模集落、どこか懐かしい山村風景ではあるのですが、宮城さんという唯一無二の人柄から見えてくる走井集落とそこに住む人々の魅力、それを守りたい、つなぎたいと感じる人々の想いが書かれ、いわゆる田舎とよばれる山村や中山間の地域での暮らし、その風景や地域の歴史を次世代へ繋ぐとは何か、「すみつぐ」とはどういうことを考えさせられる1冊でした。

（たにだ まこと）